

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○令和6年度全国学力・学習状況調査の平均正答率において、国語科では3.7ポイント、算数科では5.4ポイント全国平均を下回っていた。国語科では、全般的に知識・技能に関する事項で全国平均を上回っている反面、思考・判断・表現の力では「書くこと」「読むこと」で全国平均を下回っていた。また、短答式の問題では全国平均を上回る結果であったが、無回答率が高い傾向がうかがえた。算数科では、データの活用で全国平均に近い正答率であったが、図形や変化と関係の領域や思考・判断・表現の力において全国平均を下回っていた。一方、児童質問紙調査の結果は、「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の項目に肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っていたが、「自分にはよいところがある」「先生は、あなたの良いところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の項目に肯定的な回答をした児童の割合は全国平均を下回っていた。学習面では基礎・基本の定着と同時に、思考力・判断力・表現力を向上させるため、自ら学び考える力の育成に引き続き取り組む必要がある。生活面では、子ども同士の良好な関係づくりに肯定的な意識が育っていると思われ、強味といえる。今後の取り組みとして自己有用感や自己肯定感、教職員や身近な大人との安心できる関係づくりが求められる。

令和7年度末までに取り組む課題を次のとおり整理する。

- ◎ 互いを認め合う人間関係づくりをさらに進め、いじめの予防と自己肯定感の向上をめざす
- ◎ 互いを認め合う授業を進め、達成感・成就感を味わうとともに、自他の思考・判断・表現のよさに気づく学びと体力の向上をめざす
- ◎ 互いを認め合う読書運動や学習者用端末の活用を進め、学びの楽しさを味わう経験を広げる

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%にする。【R5:93% R6:74.2% R7:75.5%】
- ② 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を96%以上にする。【R5:98% R6:96% R7:95%】
- ③ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を令和3年度（77%）より5%以上増加させる。【R5:60.5% R6:64.5% R7:79.6%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える

児童の割合を50%以上にする。【R5:39.9% R6:29.7% R7:33.0%】

- ② 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。【R5:87.5% R6:69.7% R7:55.5%】
- ③ 規則正しい生活を身に付けている児童の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じぐらいの時間に寝ていますか」、「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合）を令和7年度調査において、90%以上にする。【R5:93%、86.1%、95.4%
R6:93.6%、87.1%、83.9%
R7:87.8%、91.8%、89.8%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を90%にする。【R5:48% R6:62% R7:66%】
- ② 令和7年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を76.5%以上にする。【R5:67.7% R6:61.3% R7:59.9%】
- ③ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校（担任も含む）は、保護者の意見や願いに応えようとしていますか。」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、98%以上とする。【R5:95% R6:95% R7:92.5%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。【R6:78.5% R7:81.6%】
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【R6:1.86% R7:150%】
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。【R6:6.0% R7:16.7%】

学校の年度目標

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。【R6:74.2% R7:96.7%】
- ② 令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうる事として考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。【R6:96% R7:95%】
- ③ 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」

の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。

【R6:64.5% R7:79.6%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。【R6:29.7% R7:33.0%】
- ・ 令和7年度の全国体力運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。【R6:69.7% R7:55.5%】
- ・ 規則正しい生活を身につけている児童の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じぐらいの時間に寝ていますか」、「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合)を令和7年度調査において、90%以上にする。【R6:93.6%、87.1%、83.9%
R7:87.8%、91.8%、89.8%】

学校の年度目標

- ① 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
【R6:一学年で未達 R7:全学年未達】
- ② 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を0.1ポイント以上増加させる。【R6:29.7% R7:33.0%】
- ③ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を前年度以上にする。【R6:69.7% R7:55.5%】
- ④ 規則正しい生活を身に付けている児童の割合(全国学力・学習状況調査それぞれに対して、肯定的に回答する児童の割合)を令和7年度調査において前年度以上にする。
「朝食を毎日食べていますか」【R6:93.6% R7:87.8%】
「毎日、同じぐらいの時間に寝ていますか」【R6:87.1% R7:91.8%】
「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」【R6:83.9% R7:89.8%】

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以

上にする。【新規 1月時点で 40.3%】

- ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。【R6:94% R7:91%】

学校の年度目標

- ① 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「よく使っている（ほぼ毎日）」と答える児童の割合を60%にする。
(※以降、前年度よりUPを目標にする) 【R6:62% R7:66%】
- ② 令和7年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。【R6:61.3% R7:59.9%】
- ③ 令和7年度末の保護者アンケートの「学校（担任も含む）は、保護者の意見や願いに応えようとしていますか。」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、95%程度とする。
【R6:95% R7:92.5%】

3 本年度の自己評価結果の総括

各児童質問紙の結果では、前年度に比べ肯定的な意識に低下は認められない。学習者用端末の活用は徐々に増加を示し、定着してきているのがわかる。しかし、各学力調査や運動能力等の調査結果からは、前年度より低い結果が認められる。また、同一集団内の学力の推移も全学年に低下傾向がみられる。不登校の増加もあり、学習定着の程度に個人差が広がる懸念がある。学力向上に向けた重点的な取り組みを計画的に行うとともに、基本的な生活習慣の確立にも注力する必要がある。

大阪市立歌島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。【R6:74.2% R7:81.6%】 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。【R6:1.86% R7:150%】 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。【R6:0% R7:16.7%】 <p>① 令和7年度の小学校学力経年調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。【R6:74.2% R7:97.9%】</p> <p>② 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。【R6:64.5% R7:79.6%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動全体を通じていじめ防止・命の大切さを考える取組を継続して実施する。歌島小学校「いじめを許さない合い言葉」を年間通じて徹底する取組を行う。また、いじめアンケートや心の天気、相談ボタンなどを活用し、いじめを早期に確認し、認知したケースについては、いじめ対策委員会などでその解消（事実確認の対策も含む）に組織的に取り組む。 <p>指標① 「いじめ・いのちについて考える日」(校長講話、児童会の呼びかけ、学級指導等)の取組を各学期1回実施する。</p> <p>② 児童理解研修(学期1回)及び生活指導全体会(原則月1回)、毎週職員打ち合わせを実施し、配慮を要する児童の状況や対応方法について迅速に情報共有し対応する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が主体的に活躍できる場を積極的に設定して承認・称賛し児童の自己肯定感を高める。また、人と関わる喜びを味わい、豊かな人間関係を育むことができるよう、異学年交流や縦割り班活動に取り組む。 <p>指標① 学校行事で児童会や委員会等による主体的な取組を実施する(学期1回以上)。</p> <p>指標② 異学年の交流活動の機会を学期1回以上、縦割り班活動を年間10回以上実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

指標①・②ともに計画通り実施し、達成することができた。いじめアンケートや心の天気、相談ボタンなどを活用し、いじめを早期に確認できる体制を整えてきた。また、随時教職員で情報を共有し、必要があれば関係職員で対策委員会を開くなどして迅速に対応に当たることができた。

取組内容②

指標①・②ともに計画通り実施し、達成することができた。各委員会の児童が活発に活動を行い、学校生活をより良くしていこうと主体的に取り組むことができています。また、学校行事や委員会・クラブ活動等では、リーダーを中心に協力し、異学年交流を深めることができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・いじめ防止や解決に向けた取り組みを学校組織全体で共有・再確認し、引き続きいじめ防止に努めていく。
- ・児童の様子を丁寧に観察してアンテナを張り、気づいたことがあればすぐに報告・情報の共有を図って迅速に対応していく。

取組内容②

- ・教職員数が減少する状況に合わせて、委員会・クラブ活動や学校行事等の活動内容や実施時期の見直しを検討していく。
- ・異学年交流や縦割り班活動の意義を教職員全体で再確認し、特に高学年児童への指導を行う必要がある。

大阪市立歌島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。 【R6:29.7% R7:33.0%】 ・ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の小学校学力経年調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を85%以上にする。 【R6:69.7% R7:55.5%】 ・ 規則正しい生活を身につけている児童の割合(全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じぐらいの時間に寝ていますか」、「毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合)を令和7年度調査において、90%以上にする。 【R6:93.6%、87.1%、83.9% R7:87.8%、91.8%、89.8%】 <p>① 令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 【R6:一学年で未達 R7:全学年で未達】</p> <p>② 令和7年度の小学校経年校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を0.1ポイント以上増加させる。 【R6:29.7% R7:33.0%】</p> <p>③ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を前年度以上にする。 【R6:69.7% R7:55.5%】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に話し合い活動を取り入れるとともに、紙・学習者用端末等を活用したドリル学習を徹底し、児童の基礎力の定着及び活用力の向上を図る。 ・校内研究を通して指導力の向上を図り、主体的・対話的で深い学びを実現する。 <hr/> <p>指標① 大阪市学力経年調査（国語・算数）について「授業の内容はよくわかる」の肯定的回答を平均90%以上にする。 (R6:国77%・算73% R7:国90.1%・算83.2%)</p> <p>指標② 教員の授業公開研修会を年間10回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康生活週間を実施し、保健目標や栄養指導を活用しながら、早寝早起き朝ごはんの規則正しい生活習慣が身につくように指導する。 ・体力テストの結果を活用し、基礎的運動能力を向上させるための取組を、年間を通して計画的に実施する。 <hr/> <p>指標① 毎学期に1回の健康生活週間を設け、チェックカードで児童が自己評価できるとともに、今後の指導に活かす。</p> <p>指標② 基礎的運動能力を向上させるため駆け足週間等の取り組みを計画的に実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①</p> <p>【指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートでは、「勉強はわかりますか」の肯定的回答が90%となっており、中間評価から、3%向上している。 ・校内アンケート「苦手な勉強も最後まで頑張っていますか」の肯定的回答が92%となっており、わからないが努力している児童がいることを評価したい。 ・休み時間や放課後など、一人ひとりにきめ細かく指導ができた。 ・話し合い活動やドリル学習を日々行ってきたが、基礎学力が定着したとは言えない。 ・過去の経年調査では、R5に比べてR6は国算とも10ポイント以上下がっている。 <p>【指標②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業を通して、指導力向上を図ることができた。 ・自分自身で課題を見出し、指導力を磨くことができた。 <p>取組内容②</p> <p>【指標①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回手洗い週間を設定し、手洗いや早寝早起き朝ごはんの意識付けを行うことができた。 ・栄養指導や保健指導、ほけんだよりなどの啓発活動でも自身の生活習慣を意識できるようになっている。 ・遅刻してくる児童が多い。校内アンケートの結果を見ても、「早寝早起きができていない」と感じている児童が1/3にも上る。 ・児童の朝の用意が8:30までに終わっていない学級がほとんどで、それに対する指導がされているようにも思えない。 <p>【指標②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駆け足週間やなわとび週間をきっかけに児童が自分のレベルに合わせながら体力づくり 	

を進めることができた。休み時間に自主的に走ったりなわとび運動をしたりしている児童も見られた。

- ・ 駆け足週間やなわとび週間だけでなく、児童会による外遊び週間もきっかけとなり外で遊ぶ児童が増えた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・ 休み時間や放課後など、一人ひとりの困り感に応じて補助やサポートをどの教科においても行っていく。
- ・ 紙、端末等を活用したドリル学習や単元終わりの復習、朝学習の取り組みなど、もう少し学校として検討が必要だと思う。
- ・ 全職員で課題や研究の方向性を定めて取り組んでいく。

取組内容②

- ・ 高学年になるにつれて就寝時間が遅くなる傾向がある。早寝早起き朝ごはんについては、家庭の協力も必要なため、引き続き啓発していく。
- ・ 児童のやる気が増すような頑張りカードの工夫。
- ・ 「8:30 までに朝の用意を完了させる」ための取り組みを学校全体で行うのはどうだろうか。また、教職員の意識も高めて、どの先生も同様に伝えていく。
- ・ 駆け足以外にも、学年や学年部で体育科の授業を使い、大会などを行うとよりよい。
- ・ 大きく改善する必要はなく、継続していく。

大阪市立歌島小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。【新規】 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。【R6:94% R7:91%】 <p>① 令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「よく使っている(ほぼ毎日)」と答える児童の割合を60%にする。(※以降、前年度よりUPを目標にする)【R6:62% R7:66%】</p> <p>② 令和7年度の小学校学力経年調査の「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を前年度より増加させる。【R6:61.3% R7:59.9%】</p>	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> <p>取組内容①【基本的な方向5 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末を日常的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実現する。 校務支援システム等を活用して児童の日々の生活の状況を可視化し、実態把握に活用したり問題の早期発見、迅速な対応を実現したりする。 <p>指標① 全学年で、学習者用端末を毎日活用する。</p> <p>指標② スクリーニングシート等、校務支援システムで蓄積した情報を活用し、近隣校や区役所等関係機関と連携して児童の実態に応じた指導を行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事や会議、校務分掌について、これまでの取り組みを見直したり精選を図ったりして校務の効率化に努め、働き方改革を推進することで、教職員がより創造的な教育活動を展開できるようにする。 <p>指標① 定時退庁をはかる「ゆとりの日」の週1回以上実施と、長期休業期間中の学校閉庁日を年間4日設定する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌島小学校の全ての子どもが生き生きと読書を楽しむために、より身近に本に親しめる取り組みを実施する。 <p>指標① 読み聞かせ、学習者用端末の活用などで本や新聞等を読む取り組みを学期に1回実施する。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の時間を使って心の天気やデジタルドリルに毎日取り組むように努めた。 心の天気や相談機能を活用して児童の日々の生活の状況を可視化し実態把握に努めた。 授業で調べ学習やプレゼンテーションに積極的に取り組み活用できた。 毎日端末の活用はできている。しかし使用時のルールやマナー、ネットリテラシーを身につけさせることが必要である。 	

取組内容②

- ・ゆとりの日を実施しているが、ゆとりの日の中々取得できない場合がある。
- ・学校閉庁日は計画通り実施できている。
- ・一人作業になりがちな校務分掌が多い。
- ・学校行事・会議・校務分掌など、見直しや効率化を実施できる部分がある。

取組内容③

- ・読み聞かせボランティアグループ ZOOM による読み聞かせや図書委員会の活動などで本に親しむことが十分に行えていた。
- ・パタポン・ZOOM による読み聞かせも計画的に行えた。
- ・読み聞かせ活動を低学年はとても楽しみにしていた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・給食準備中のパソコン使用は衛生面を考慮して禁止にした方がよい。
- ・クラスルームの活用法など校内研修で様々な使い方を身につけていく。
- ・心の天気は、入力チェック・個別の声かけをしているが、なかなか習慣化しない児童もいる。入力を忘れている日もあるので、チェックや声かけを継続していく。

取組内容②

- ・ゆとりの日は設定されていても定時時刻（17時）があまり守られていないので、ゆとりの日の運用の仕方を検討していく。
- ・児童数・教員数が減少していくため、学校行事の運営の仕方も検討していく。
- ・校務分掌では、サブでつく若手職員を幅広い公務分掌に割り振り、主となる職員の手伝いをしやすい体制を作っていく。

取組内容③

- ・読書タイム・図書館開放がうまく活用されていない。
- ・読み聞かせボランティア ZOOM による図書館開放・図書委員会の開放への参加が増えるよう、読み聞かせイベントや強調習慣などを検討したい。